

獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2018年度研究業績一覧

(2018年4月～2019年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

明田川聡士

論文（単著）

- ・「台湾人と東南アジア出身の外国籍労働者／配偶者との距離——『四方報』及び「移民工文学賞」，映画『台北星期天』について」『植民地文化研究』第17号、植民地文化学会、2018年7月、169～183頁。
- ・「台湾の郷土文学と新郷土小説——楊富閔「暝哪会這呢長」及び小説集『花甲男孩』を中心に」『マテシス・ウニウエルサリス』第20巻第1号、獨協大学国際教養学部、2018年10月、111～135頁。

解説

- ・「台湾における東南アジア出身の外国籍労働者／配偶者と「移民工文学賞」『東方』第447号、東方書店、2018年5月、7～13頁。

翻訳

- ・李喬著、明田川聡士訳『藍彩霞の春』未知谷、2018年6月、全365頁。
- ・莊瑞琳著、明田川聡士訳「国家の叙事における哀愁——十九世紀末以来の「テロ」の意義」『植民地文化研究』第17号、植民地文化学会、2018年7月、39～40頁。

安間 一雄

口頭発表／講演

- ・“Extracting patterns from transition of occurrence frequency of grammar items in a junior high school textbook.” APCLC (Asia Pacific Corpus Linguistics Conference) 2018. 2018年9月。(高松：サンポートホール高松)
- ・“Partial scoring of reordering tasks: Maximal Relative Sequence by Excel.” 2019 IEEE 2nd International Conference on Information and Computer Technologies. 2019年3月。(University of Hawaii at Manoa)

新井 剛

著書（共著）

- ・「買戻し」潮見佳男、山野日章夫、山本敬三、窪田充見編『新・判例ハンドブック 債権法Ⅱ』日本評論社、2018年4月、94～96頁。
- ・「振り込め詐欺救済法の意義と課題」河上正二、大澤彩編『人間の尊厳と法の役割—民法・消費者法を超えて—』信山社、2018年12月、411～439頁。

論文（単著）

- ・「判例の拘束力とその射程（一）」『月報司法書士』558号、日本司法書士会、2018年8月、46～59頁。
- ・「判例の拘束力とその射程（二・完）」『月報司法書士』559号、日本司法書士会、2018年9月、52～65頁。

判例研究

- ・「インターネットバンキングによる不正振込送金と銀行の責任」『私法判例リマックス』57号、2018〔下〕、日本評論社、2018年7月、26～29頁。

飯島 一彦

論文（単著）

- ・「架蔵箏組歌本『ことのくみ（仮称）』解題と翻刻」『マテシス・ウニウエルサリス』第20巻第1号、2018年10月、45～78頁。
- ・「「いざれ、独楽」は童謡か？」『日本歌謡研究』第58号、日本歌謡学会、2018年12月、13～21頁。

書籍紹介（単著）

- ・『白石市文化財報告書第58集 奥州白石仇討嘶調査報告書』『日本歌謡研究』第58号、日本歌謡学会、2018年12月、99頁。

講演

- ・「異人としての芸能者と歌謡」日本歌謡学会2018年度秋季大会、於岩手大学、2018年11月。

シンポジウム

- ・「読みの多様性—歌謡へのアプローチ」日本歌謡学会2018年度春季大会、於杉野服飾大学、2018年5月。

浦部 浩之

論文（単著）

- ・「第8回米州サミット 低調な米州関係を露呈」『外交』49号、2018年5月、68～69頁。
- ・「ハイチ・ドミニカ共和国間の外交摩擦とカリブの地域主義」『マテシス・ユニウェルサリス』第20巻第1号、2018年10月、1～23頁。
- ・「2017年チリ大統領・国会議員・州議会議員選挙―国会議員選挙制度の改革とチリ政治刷新の展望―」『マテシス・ユニウェルサリス』第20巻第2号、2019年3月、1～26頁。

岡村 圭子

その他の活動

- ・草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会委員
- ・コンフォール松原（旧・草加松原団地）居住者への聞き取り調査
- ・1960－1980年代に草加松原団地に居住していた住民への聞き取り調査
- ・草加松原団地およびその周辺の記録写真の収集とアーカイブ化

川村 肇

著書（単著）

- ・『読み書きは人の生き方をどう変えた？』清水書院、2018年8月。

論文（単著）

- ・「教育思想と藩校・私塾に関する研究」教育史学会編『教育史研究の最前線Ⅱ』六花出版、2018年、18～28頁。

小宮 秀陵

共著（教科書）

- ・홍민표、한중근、이서준、小宮秀陵『（高等学校）日本文化』京畿道教育庁、2018年、206頁。

その他（紹介）

- ・「ソウル大学校中央図書館」U-PARL（東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門）編『世界の図書館から―アジア研究のための図書館・公文書館ガイド』勉誠出版、2019年3月、59～62頁。

呉 浩東

論文（単著）

- ・「機械翻訳の原理と研究動向」『マテシス・ウニウエルサリス』第20巻第2号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2019年3月、27～41頁。

研究速報（単著）

- ・「複数の言語資源を用いた難解語の平易化モデルの構築」『情報学研究』第8号、獨協大学情報学研究所、2019年2月、68～72頁。

齋藤 哲

資料（共著）

- ・沖縄の民事陪審（1）—記録から見た庶民の力—（獨協法学107号、獨協大学法学会、2018年12月、463～496頁）
- ・沖縄の民事陪審（2）—記録から見た庶民の力—（獨協法学108号、獨協大学法学会、2019年4月、295～332頁）
- ・沖縄の民事陪審（4）—記録から見た庶民の力—（マテシス・ウニウエルサリス、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2019年3月、261～292頁）

雑記（単著）

- ・歴史の中の福祉探訪（飢の環、仙台檢察審査協会、2018年1月）

田口 雅徳

論文（単著）

- ・「大学生における飲料摂取とストレス指標としての唾液アミラーゼ活性との関連に関する予備的研究」（『カウンセリング・センター年報』第39号、獨協大学カウンセリング・センター、2019年6月、8～13頁。

口頭発表

- ・「ベトナム人留学生にみられる描線動作の特徴：日本人大学生との比較による予備的検討」日本心理学会第82回大会（東北大学）、2018年9月。

武信 彰

- ・「宜蘭を訪ねて：台湾温泉雑考」『獨協大学学報』No.35、2019年3月、49～51頁。

二宮 哲

論文（単著）

- ・「un (os) y algún (os) ～数量詞に関する語用論的特徴のモデル化に向けて～」『スペイン語学研究』33、東京スペイン語学研究会、2018年8月、85～99頁。

野原ゆかり

講演

- ・「日本語を教えない」授業での参加者の学びと教師の役割—交換留学生のフィールドワークを事例に—（神奈川大学外国語科目教育学部主催ワークショップ「外国語科目を学び合うⅧ」、2019年2月）

林 永強

口頭発表

- ・“Nishida Kitarō's ethics and public philosophy.” Society for Cultural Interaction in East Asia, the 10th Annual Meeting, City University of Hong Kong, 12-13 May 2018.
- ・“Miki Kiyoshi and virtue ethics: with a focus on *Jinseiron nōto*.” The 12th International Symposium for Japanese Language Education and Japanese Studies, The Polytechnic University of Hong Kong, 8-9 December 2018.

安井 一郎

著書（編集・解題）

- ・『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 東日本編』全3巻、金馬国晴・安井一郎、クロスカルチャー出版、2018年9月

論文（共著・分担）

- ・「小学校特別活動の学級活動における授業評価に関する研究—小金井第二小学校の学級活動（1）の実践を事例として—」（林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅰ』第70集、2019年2月、13～24頁。

口頭発表

- ・「新学習指導要領における道徳、総合的な学習（探究）の時間と特別活動提案3 『特別活動』改訂の趣旨と課題、留意点」（日本特別活動学会第27回大会シンポジウム、武蔵野大学、2018年8月25日）

口頭発表（共同研究発表）

- ・「特別活動でOECD準拠型コンピテンシーを育成するための指導方法の開発に関する研究（１）—小金井第二小学校の学級活動で育成された資質・能力—」（林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子、日本特別活動学会第27回大会自由研究発表、武蔵野大学、2018年8月26日）

2017年度研究業績訂正

論文（共著・分担）

- ・「特別活動で社会的資質を育成するための指導内容と指導方法の開発に関する基礎研究（３）—学級活動を事例として—」林尚示、安井一郎、鈴木樹（『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅰ』第69集、2018年2月、69～79頁）